

OR学会中部支部 SSOR中部支部2019ルポ



水谷 聡志 (SSOR中部支部2019副代表, 愛知工業大学)

2019年8月29日(木), 30日(金), 合宿形式のOR若手研究者の育成プログラム・SSOR中部支部2019が開催された。会場は, 前々回のSSOR中部支部2017と同じく, 愛知県蒲郡市の蒲郡荘であった。参加者は26名, 宿泊者は22名で, その中で14名の学生が発表した。参加学生の所属は, 愛知県立大学, 岐阜大学, 名古屋大学および南山大学であった。

今回のSSORは, 前回のSSOR中部支部2018に做ったものの多少変更した。まず, 発表時間を質疑応答含めショートは15分, ロングは25分に区別して, 申込時に講演者に選択してもらった。発表題目およびアブストラクトは中部支部のHPにて公開されている。

初日は13時半から開始した。ショート3件, ロング6件の発表があった。最初は, SSOR中部支部2019代表の金子美博先生(岐阜大学)が挨拶をかねて, SSORの意義ならびに発表での留意事項を説明された。数件の発表を経た後, 愛知県立大学の奥田隆史先生に「ORを探せ 情報システム編」という題目でチュートリアル講演をしていただいた。

前半は先生の自己紹介であり, 過去のさまざまな体験が写真とともに述べられた。何事も積極的に経験するという先生の信条が, 説得力をもって伝わる内容で

あった。後半ではORは情報システムなどを支える役割を果たし, さまざまな場面で使われていることが説明された。

18時からは, 会場でバーベキュー形式での交流会を行った。会場の蒲郡荘の計らいもあり, 食べきれないほどの肉や海鮮に一同満足した。その後, 有志連合で竹島まで散歩に出かけ, 地元の方々と花火を楽しみ, 夏の風情を感じる一コマとなった。

2日目は, ショート2件, ロング3件の発表があった。9時から発表があり, 数件の発表を経た後, 金子先生に「岐阜大学での教養教育としてのOR」という題目でチュートリアル講演をしていただいた。前半は先生の自己紹介であり, 多くの出会いを通して幅広く専門分野の方々から学んだことが財産であると述べられた。後半では, 他分野への積極的な活用などORに対する考えと教育への取組が説明された。1年分の内容を, 理科系向けと文科系向けに分けていることが印象的であった。また, ORの普及を意図して, 当該講演のコンテンツが教員免許状更新講習にも利用されていることが紹介された。

学生の発表は完成されたものもあれば, 途中のものもあった。何回目かの参加となる学生もいて, 落ち着いた雰囲気での発表が行われた。人前で研究の話することは大変よい経験であり, さまざまな質問に対応することは能力を向上させる絶好の機会でもある。何よりもこんな楽しい学会があったのかとSSORに好印象をもてば, 今後の研究の励みになるであろう。

今回は4大学の参加学生であったが, できれば, 中部支部の内外を問わず, 日本全国からSSOR中部支部へのご参加を望む。今回の参加者がぜひ次回もと思っただけければ, 運営冥利に尽きる。

末筆ながら, 本部ならびに中部支部それぞれから頂いた財政支援に謝意を表する。

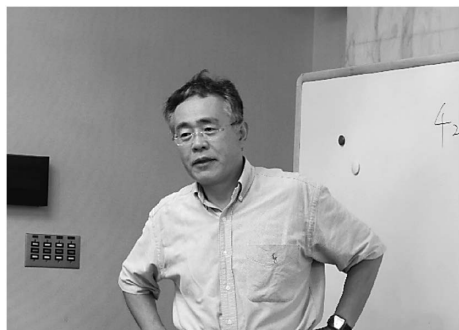


図1 奥田先生によるチュートリアル講演